

平成22年度

自己評価書 学校関係者評価書

本校では、保護者や地域の皆様に学校の取り組みを理解していただくために、平成19年度より「**自己評価書**」「**学校関係者評価書**」を作成しています。

「**自己評価書**」は、

- 子どもの学期ごとの振り返りカード（自分で自分を評価するもの）
- 保護者からのアンケート（自分の子どもを見て、評価するもの）
- 職員による評価（子どもを見て、到達しているか判断するもの）

この3つの自己評価をもとに、

<点数による評価>

<取り組んだこと、評価の分析>

<改善策>

を示してあります。

「**学校関係者評価書**」は、本校の「自己評価書」を受けて、10名の学校関係者評価委員の方に評価をしてもらったものであり、

<改善策>の後に

<学校関係者評価委員の意見と評価>

として示してあります。また、

「**大変すばらしい**」「**すばらしい**」「**改善が必要である**」「**考え直す必要がある**」の4段階で評価をしていただきました。

「**自己評価書**」「**学校関係者評価書**」は、本校の取り組みを外部の人から評価してもらい、学校の取り組みを見直し、子どもたちをさらに成長させるために作成しています。

浜松市立蒲小学校

平成22年度蒲小学校「自己評価書」 学校評価集計

本校では、知育（頭）、徳育（心）、体育（体・健康）のバランスのとれた教育を目指して、学校教育目標を

「やさしさ やる気 夢 いっぱい」

としている。

また、学校教育目標を具現化していくために、「蒲小5つの学校宣言」を設定し、地域・保護者に公表し取り組んできた。

＜蒲小5つの学校宣言＞

- | |
|--|
| ①きらきら輝く瞳で学習する子を育てます。（知育） |
| ②相手を思いやり、自分を大切にすることを育てます。（徳育） |
| ③本気で汗を流す子を育てます。（体育） |
| ④子どもにとって居心地のよい環境（人・もの・こと）をつくります。（発達支援教育） |
| ⑤地域とともに学ぶ学校をつくります。（開かれた学校） |

今年度は、1学期の教育活動の取り組みを、1学期の終了時に全職員で検討する際に、各学校宣言をより具体的に取り組むために、学校宣言の重点を決めることとした。そして、この重点をもとに、2学期以降に集中的に取り組んできた。各宣言の重点は、以下のように設定した。



◎が各宣言の重点

宣言①＜知育＞

「きらきら輝く瞳で学習する子を育てます。」

- ◎学習ルールの定着を図る。
- ◎計画的に補充・発展学習（仮称ポプラ学習）に取り組む。

宣言②＜徳育＞

「相手を思いやり、自分を大切にすることを育てます。」

- ◎道徳の授業の充実を図る。
 - ◎3つの「あ」に積極的に取り組む。
- ＜あいさつのキャッチボール、ありがとうのぐるぐる回し、あたり前のことをあたり前にしよう＞

宣言③＜体育＞

「本気で汗を流す子を育てます。」

- ◎なわとび運動の活発化を進める。

宣言④＜発達支援教育の理念＞

「子どもにとって居心地の良い環境をつくります。」

- ◎今そこにいる子の姿を大切に支援に取り組む。
- ◎学校生活で、どの子どもも生かされる工夫をする。

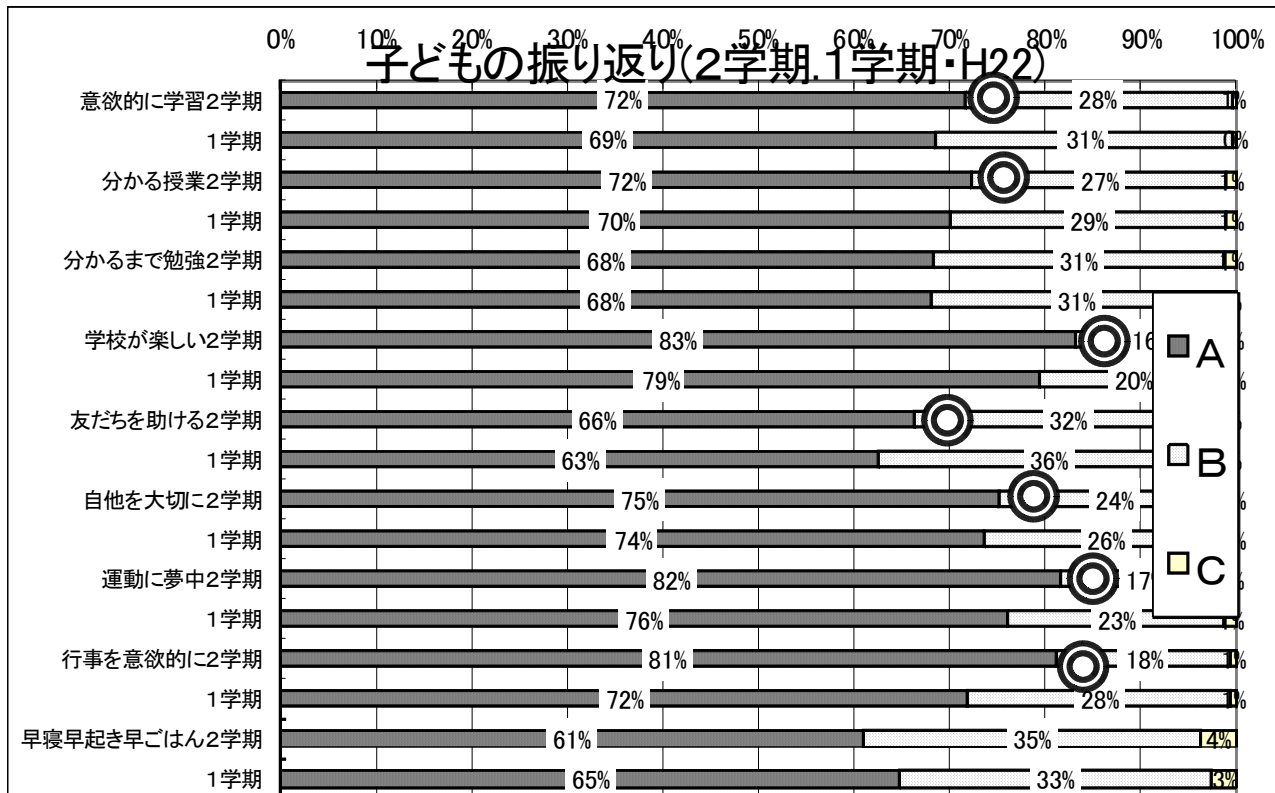
宣言⑤

「地域とともに学ぶ学校をつくります。」

- ◎宣言の取り組みや表れを、たより・参観会・ホームページで発信する。
- ◎地域や家庭と交流を持ち、学習に生かしていく。

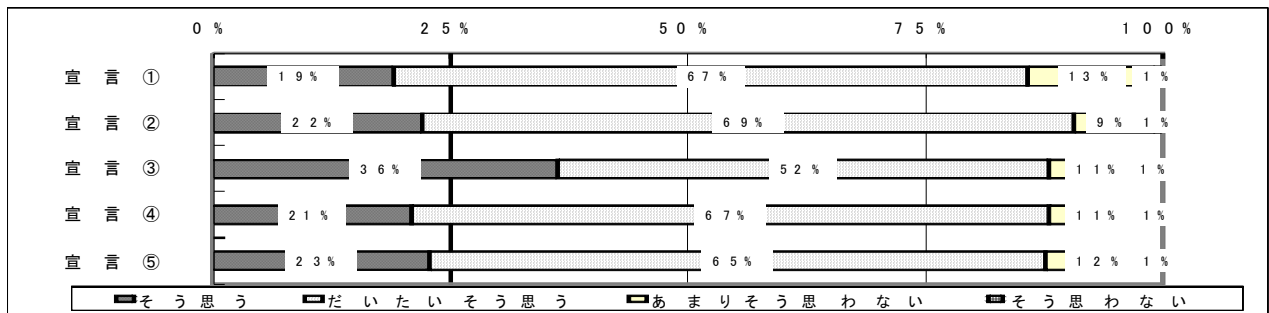
1学期と2学期について、各宣言に係わる、児童の自己評価、保護者のアンケートの集計をまとめると以下のような結果となった。

① 児童自己評価（振り返りカード）から

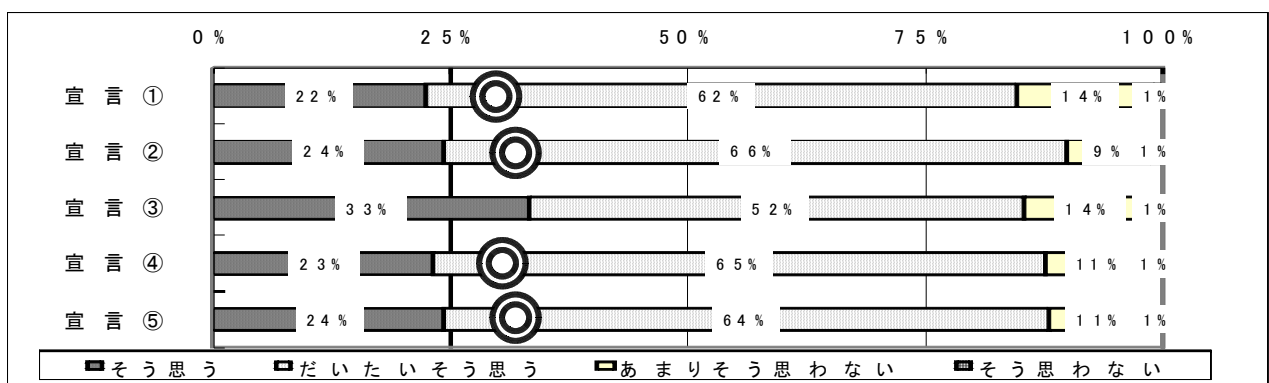


② 保護者アンケート（学校宣言の取り組みについて）

< 1学期 >



< 2学期 >



子どもの様子について「そう思う」のみの比較<平成21年度 → 平成22年度1学期 → 平成22年度2学期>

宣言① 14%→19%→22%、宣言② 18%→22%→24%、宣言③ 30%→36%→33%

宣言④ 20%→21%→23%、宣言⑤ 22%→23%→24%

<評価結果に対しての分析・改善策>

児童自己評価（振り返りカード）

- 児童の自己評価では、Aの評価が9項目中、7項目に上昇がみられた。子どもたちの頑張りが感じられる。
- 「行事を意欲的に」「運動に夢中」の順で上がった率が高い。2学期は、リレー大会や長なわ大会などに向けてに熱心に頑張り、どのクラスも目標に向かって取り組めたことが、向上につながったのではないかと考える。
- 「学校が楽しい」の項目が一番高く、Aの評価が8割を越えたのは大変嬉しいことである。子ども同士の間関係もうまくいっていることが分かる
- 学習に対するルールが分かってきて、学習に対する見通しがついてきた。体験的な授業内容もあり、意欲的に学習ができるようになってきた。
- 2学期になり、友達のことが分かってきて、相手に対する対応が上手になってきた。今後は、善悪の判断ができる子を低学年のうちから育てたい。
- 「早寝早起き朝ごはん」の評価だけが下がってしまった。「これではいけない。」と子ども自身の評価が厳しなったとも考えられるが、子どもたちへの取り組みに対する意識付けをさらに工夫していきたい。

保護者アンケート（学校宣言）

- 「そう思う」の評価が上がっている。日頃の活動や参観会などで、学習や生活の様子を理解していただき有り難い結果となった。
- 学校宣言の重点については、懇談会で話題としたり、学校だよりで紹介したりしてきたことも、学校の取り組みに対して評価してもらえたのではないかと考える。
- 宣言③の「そう思う」については、30パーセントを超えているが、1学期よりも下がってしまった。2学期は、耐震工事などのため、環境的に運動を充実させていくに難しい面もあったことも影響しているのかもしれない。
- 宣言⑤については、各学年で地域の名人を招いたり、参観会などで保護者の方との関わりを深めてことが評価してもらえたのではないかと考える。今後、子どもから、保護者の方に、学校での活動や様子が伝わる活動を増やしていくことも考えていきたい。

<学校関係者評価委員の意見と評価>

- 多くの子どもが学校を楽しんでいることは、大変喜ばしいことです。
- 「早寝早起き朝ごはん」は、家庭での「力」が大きいと思います。大人も子どもも一緒に取り組む活動」として習慣になればと思います。睡眠と食事は、子どもの成長の基礎です。
- 目標を設定し、実践・評価していくのは大変良いことです。特に児童に自己評価させることは良いことで、成果・結果がよく分かると思います。
- 学期が進み、良い方向になっているのは良いことです。信頼関係が深まってきていると思える。

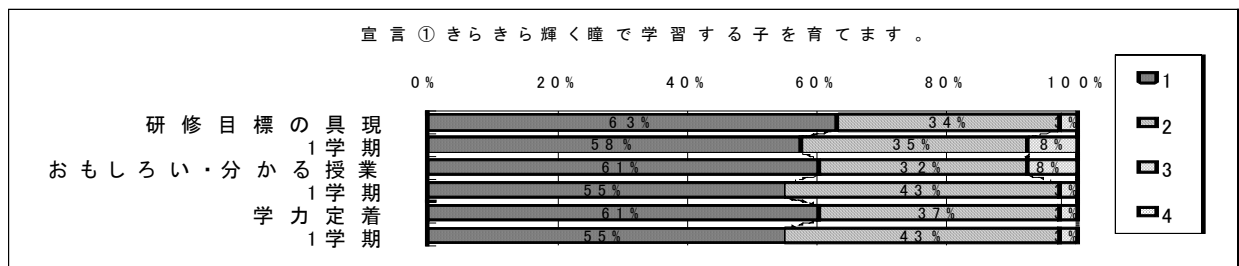
学校関係者評価：すばらしい

③ 学校評価（教職員から見た学校教育活動）

A 夢いっぱい…宣言①

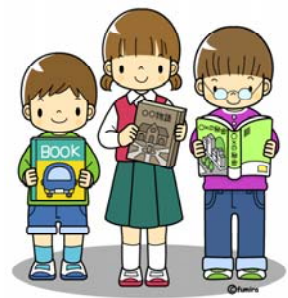
10点満点

①各個人で教科を決め、自分のテーマで研究を進めていくことは、研修目標「夢に向かって学び合う子」の具現に有効であったか。	9.01
②各教科・総合的な学習の時間＜外国語活動・情報教育を含む＞で、おもしろい授業・分かる授業となるための授業改善に取り組んでいたか。	8.82
③少人数指導・補習授業は、子どもの学力が定着されるように効果的に取り組めたか。	8.95



<評価結果に対するの分析・改善策>

- 子どもの学習が効果的に進むための学習のルール・マナーを検討し、子どもたちに指導した。継続的に指導することで、ハンドサインや発表の声の大きさについて定着が進んできた。
- 1学期よりも、どの項目も評価が上がっている。学校宣言の重点を決めたことで、授業力を高めていく視点が明確になってきたのではないかと考える。
- 2～5年生の算数科での少人数指導で習熟度別学習を行い、基礎基本の定着を図った。習熟度別学習のため、児童の実態に応じた指導が行えた。また、少人数指導では、教師だけではなく市から派遣された学習指導支援員が入った授業だったため、子どもたちの理解が上がった。
- 学期末には、基礎基本の定着が必要な児童のために、補習を行った。分からなかったことを振り返らせ、確認するよい機会とすることができた。
- わかば学習＜総合的な学習＞では、体験活動を多く取り入れたため、子どもたちが意欲的に活動できた。学習では、地域の多くの方に御指導・御協力をいただくことができた。
- 子どもにとって「おもしろい授業・分かりやすい授業」を目標に、授業改善を進め、授業力を高めてきた。来年度は、研修は教科をしばらく、学年研修や教科のグループ研修を充実させて、研修内容を深めていきたい。
- 5・6年生の英語活動を年間20時間設定し、外国語への抵抗感を減らしたり、外国への理解を深めたりするために、ALT（外国語指導助手）を積極的に活用してきた。来年度は、週1時間の年間35時間となるので、指導方法を明確にしたり、指導教材を充実させたりしていく。



<学校関係者評価委員の意見と評価>

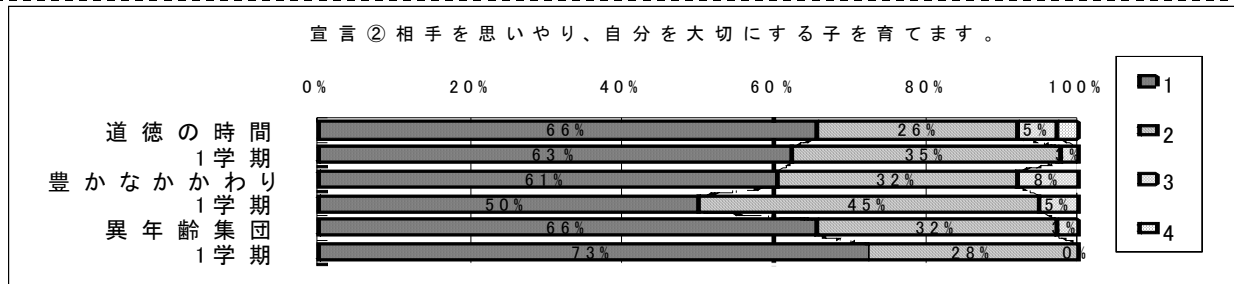
- 子どもたちが、進んで参加する授業、なんでだろうと思える授業になるように、努力していただくことがわかった。職員の子どもの学習指導に対する取り組みや努力が、評価の数字に表れている。
- 学習が効果的に進むためには、学習のルール、マナーの基礎を定着させていくことが不可欠である。今後も、継続的に指導してほしい。
- 英語教育の必要性を認識して、英語活動を積極的に指導してほしい。

学校関係者評価：すばらしい

B やさしさ いっぱい…宣言②

10点満点

④道徳の時間が、各学年の重点目標を達成するために、有効に実践されていたか。	8.88
⑤クラブ活動、委員会活動などが、児童の豊かなかかわりを育む場になっていたか。	8.82
⑥なかよし清掃・ポプラ遊びは、異年齢のかかわりを大きくするために有効であったか。	9.08



<評価結果に対する分析・改善策>

- 道徳の時間を道徳教育の柱と位置づけ実施するとともに、年間1回は道徳の授業を公開してきた。また、保護者の方にも授業に参加していただき、親子で考えるなど授業の工夫をすることもできた。
- 人間関係の豊かなかかわりの第一歩は、あいさつである。学校宣言の重点でもある「あいさつのキャッチボール」について、教師・児童ともに進んで取り組むことができた。二つの委員会が「あいさつ」を広めるために、集会を開いたりあいさつ運動をすすめたりすることができた。
- 異なる年齢の子どもと活動する経験を持つために、縦割り活動を行っている。なかよし清掃、ポプラ遊び(縦割り遊び)を実施してきたが、2学期は耐震工事のため、回数も場所も制限されてしまった。実施方法について再考していきたい。
- なかよし清掃とポプラ遊びでは、6年生が低学年に上手に声かけを掛け、楽しそうに活動していた。週に3回顔を合わす異学年集団に対して、子どもたちは愛着を感じているようである。来年度は、全学年が6クラスとなる予定である。異年齢集団の活動が取り組みやすくなることが期待される。
- 委員会活動の編制の方法を変え、各クラスにどの委員会の児童がいるようにした。そのため、6年生が学校全体の活動内容を把握したり、担任が頑張っている子を認めたりすることができた。



<学校関係者評価委員の意見と評価>

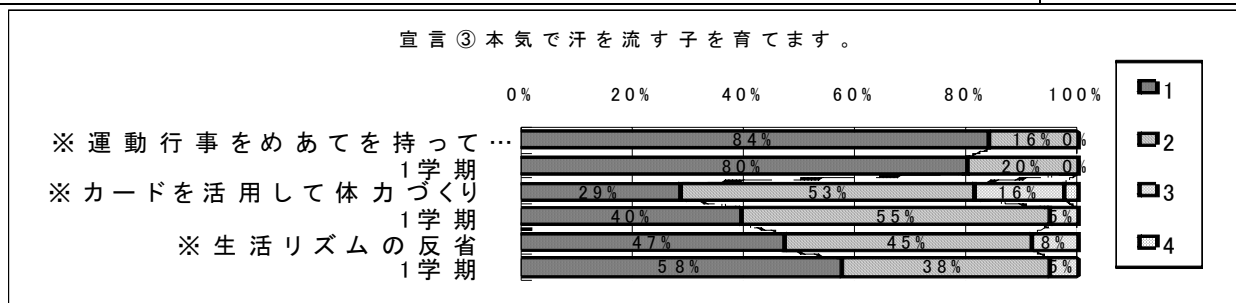
- 縦割り活動など、異学年のかかわり合いの活動が充実していることが素晴らしいと思う。目上の人を敬うこと下の学年の面倒をみることなど、最近の世の動きの中ではたいせつなことだと思う。
- 道徳教育の柱と位置付け、保護者に授業に参加してもらうことなど大変よいことだと思います。
- あいさつがよく出来るようになったと思います。また、あいさつがきちんと出来る子になるように、日々くり返して声かけをしている様子がよく分かりました。これからも続けてほしいと思います。

学校関係者評価：大変素晴らしい

C やる気 いっぱい…宣言③

10点満点

⑦各運動行事(運動会)では、めあてを持たせ計画的に取り組ませることができたか。	9.61
⑧各種カードを活用して、バランスのとれた体力がつけられたか。	7.70
⑨早寝・早起き・朝ごはんを各月(1週間)反省させたことによって生活のリズム化が図れたか。	8.49



<評価結果に対するの分析・改善策>

- 児童が、リレー大会や長なわ大会などに積極的に取り組めた。特に、長なわ大会があったため子どもたちが休み時間ごとに外に出て運動する習慣がついた。
- 各行事があることは、子どもたちにとって良い目標設定となり、体力の向上やクラスの団結につながった。メリハリのある学校生活を送れたと感じる。
- 「早寝・早起き・朝ごはんカード」を活用して、保護者の協力を得ながら、基本的な生活習慣に対する意識の向上を図ってきた。しかし、高学年になると、塾やドラマなどで、10時以降に就寝する子どもたちが多くなった。「睡眠の重要性は分かっているものの…」という子が多いが、行動に移せるよう、指導を継続していく。
- 給食指導は、栄養面でも集団行動を学ぶ面でもとても大切な場になっていた。給食では初めの頃に比べ、残食が減り、子どもたちも苦手なものも一口でも食べる姿勢が見られた。
- 朝の集団登校では、それぞれの門に、多くの先生方が立って、あいさつをしたり、1つ1つの班に声を掛け安全指導をしたりしてきた。見届けの成果もあり、ほぼすべての班が、きちんと集団登校ができている。
- さらに児童数が増加していくので、運動量の確保と体力の向上を図るために、体育授業や運動会での活動方法や場の設定を工夫したり、体育イベントを積極的に行ったりしていく。



<学校関係者評価委員の意見と評価>

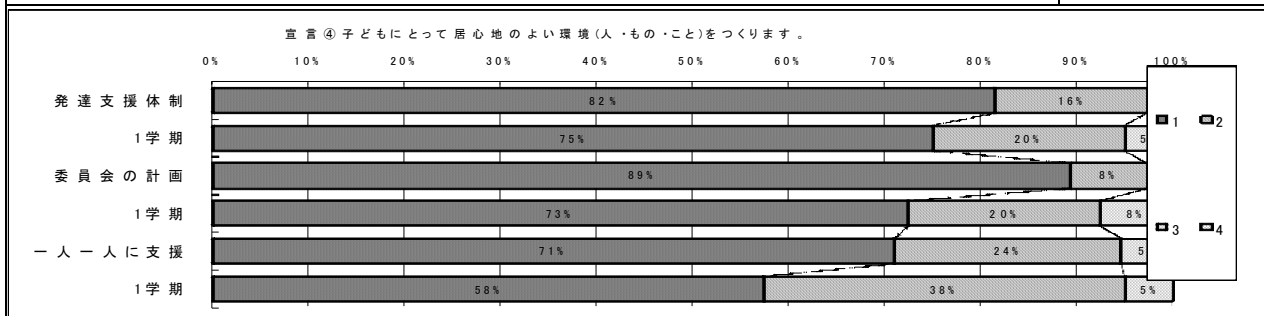
- リレー大会、長なわ大会では、クラスの団結を高め、リーダーなって先頭に立つ子どもや、みんなを後押しする子どもの姿を見せていただき良かったと思います。
- 県下最大規模でしかも、耐震工事で運動場が狭くなったにもかかわらず、子どもたちが工夫して運動場を効率よく使っていることがわかった。
- 朝の集団登校の指導が良くできていると思います。

学校関係者評価：すばらしい

D 発達支援教育…宣言④

10点満点

⑩本校の発達支援体制は、児童一人一人のニーズに応えるために有効であったか。	9.47
⑪生活指導委員会、就学指導委員会、なんでも支援委員会は、支援計画を立てたり、共通理解を図ったりするために有効であったか。	9.67
⑫児童一人一人のニーズを把握し、それに応えるための支援をすることができたか。	9.14



<評価結果に対する分析・改善策>

○特別な支援が必要な子が大勢いるが、いろいろな先生方がそれぞれの立場で協同体制を組み、協力しながら指導することができた。また、それぞれの担当から、担任へ助言をしたり、進んでその子と関わりを持ってたりする中で、情報交換も頻繁にすることができた。



○生活指導では、各学年間や各委員会で共通理解しながら、協力体制がしっかりできていたので、各委員会で理解を深めるとともに、いろいろなアドバイスを得ることができた。

○外国人の児童やその保護者に対応する担当・外国人サポーターが、保護者の思いきちんと受け止めて伝えてくれた。また、学校の様子や思いを伝える際も連絡が取りやすかった。

○「こころの日」を決め、毎月、人間関係を良好にするための人間関係プログラムを行ったり、心に残る話をしたりした。また、自分の良いところ頑張っているところを一人一人カードに書き、掲示していくなど自分の良さを自覚していく活動にも取り組んだ。

○現在6年生だけがヘルメットの色が違い、リーダーということがはっきりするので、声かけがしやすいが、来年度からは、すべての学年が同じヘルメットになる。6年生のヘルメットに何かリーダーとしての印を付けることを考えていきたい。

○子ども一人一人とじっくり話す機会は、指導方法を工夫し、一緒に活動する中で意図的に声を掛けていくことができるように考えていく。

<学校関係者評価委員の意見と評価>

○クラスで授業が受けられない子どもへの配慮など、細かい心遣いを有難く感じる。児童数の多い蒲小学校で、本当にさまざまな児童がいる中、対応が充実しているので、大変であるがこれからも続けてほしい。支援が必要な子どもの指導協力の体制がよくできている。

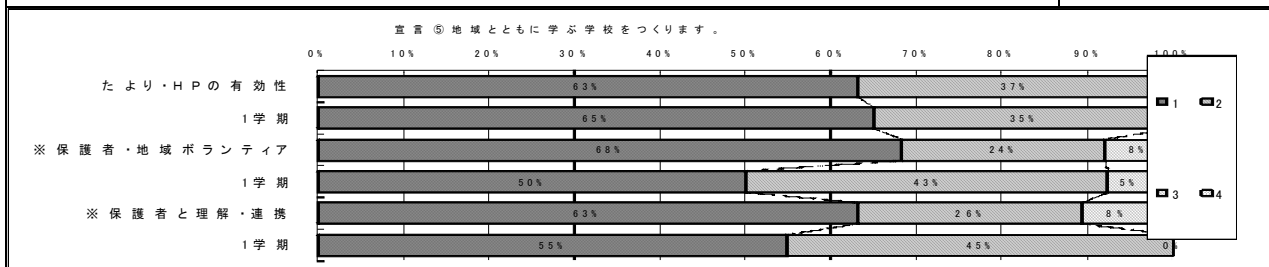
○今後さらに、さまざまな子どもたちに対応する、指導員講師などの増員が望ましいと思います。

学校関係者評価：大変すばらしい

E 地域とともに学ぶ…宣言⑤

10点満点

⑬学校だより・学年だより・HPにより学校の教育活動を十分に保護者地域へ知らせることができたか。	9.08
⑭各教科・領域・わかば学習で、保護者ボランティア・地域ボランティアと交流をもち学習に生かすことができたか。	9.01
⑮参観会・ふれあいトーク・学校行事（運動会）後アンケートなどを通して、保護者と理解・連携することができたか。	8.75



<評価結果に対するの分析・改善策>

○学校ホームページのブログを、できるだけ更新するように努力してきた。今後は、ブログを更新できる者を増やしていけるように、校内で技術研修を行っていききたい。

○校長室だよりが発行され、学校の環境や児童の様子、校長の経営方針などが、より具体的に保護者・地域に発信されるようになった。

○参観会の中でなるべく子どもの生き生きと活動する姿を見せるように工夫したが、ふれあいトーク（懇談会）への参加者が少ないのが悩みであった。

○町ごとの夏祭り、蒲地区の秋祭り、蒲地区のじゃんけん大会などの地域の行事に、多くの児童が参加し、楽しんでいる様子を見聞きした。

○生活科の町探検の学習で、地域の施設や店を見学し、地域の方とのふれあいを深めることができた。また、保護者のボランティアの協力をいただき、子どもたちの安全を守ることができた。

○わかば学習などで、地域の方に学校に来てもらい授業を進めていくことができた。わかば学習では、地域の方と触れ合ったり、教えていただいたりする機会を多くつくることができた。蒲小の保護者・地域の方はとても温かく、協力的である。この信頼関係を崩さないように、日々の努力をしっかりと継続していききたい。

<学校関係者評価委員の意見と評価>

○学校は、地域と良好な関係を築いていると思う。また、学校の様子も、HP やたよりで知ることができ分かりやすい。校長室だよりを見せていただくのが楽しみである。

○校区の人々は、子どもたちを地域で見守ろうとする意識が高いと思う。学校からの要望についてはなるべく実現していきたいので、なんでも言ってきて欲しい。

学校関係者評価：大変すばらしい